

けいじばん

○次回活動日のご案内；12月2日（土）12月3日（日）主な活動メニューは、伐採木の玉切り・倒木整理・マダケ林整備（除伐）など森の整備、きのこ植菌準備、リース教室、班活動（植物班、シカ班、栽培きのこ班、きのこ班）等。携行品：鉋、手鋸、あればチェーンソー（ゴーグル・防振手袋）ヘルメット。集合：第一駐車場、2日（土）は9時30分、3日（日）は8時30分。2日、3日とも日帰り参加可能です。3日のみ参加希望者は上記アドレス宛メール又は電話下さい。当日の連絡は携帯090-3809-7907へ。リース教室参加希望者は、本誌最終頁「リース教室のお知らせ」をご覧下さい。

○忘年会のご案内；12月2日（土）17:30～20:00、於国民宿舎清和、会費約1万円、宿泊なし約5千円。追加申込又はキャンセルは11月26日までに、上記アドレス宛メール又は電話下さい。

ちば里山センター技術研修実施報告

11月19日（日）、豊英島において、ちば里山センター主催の技術研修（安全な作業Ⅲ）が開催された。豊英島をフィールドに使用して広葉樹伐採の安全研修を実施することは当会のかねてからの強い要望であったが、幸い関係者の理解を得ることが出来、実施の運びとなったものである。

当日は雨模様であったが、「安全の基本的講義」、「チェーンソー点検整備」、「伐採研修」と密度の濃い研修であった。受講者28名、講師2名（林業サービスセンター木村正敏氏・ちば里山センター事務局長 森浩也氏）、支援スタッフ3名の総勢33名で、豊英島がいつになく大勢の人で埋まった。受講者の内訳は当会15名、鴨川里山を守る会6名、いちほら里山クラブ3名、その他4名であった。

主な内容は以下のとおりである。

講義（10:00～11:00）

里山センター森講師のあいさつのあと、林業サービスセンター木村講師の元気な声で研修が始まった。

具体的な事故事例などを挙げながら、テキストで原則を確認する講義で、それぞれの事故防止ルールがなぜ必要なのかよく実感できた。印象に残った例示は、以下のとおり。

- 服装、笛の携帯、体調管理など基本的なことがまず大事である。
- 当日の天候、森林の状況などとともに、参加者が多いことも危険要因である。
- かかり木の処理を自己流で長年行ってきて、事故に結びつくことが多い。
- チルホールなどの安全用具は重く、時間もかかるので、つい手抜きをして事故になる。
- 全員が安全認識をしっかりと持ち、作業者に安易な選択をさせないことが大事。
- ロープでも滑車を複数使えば、半分の力ですむ。
- 受け口を切るときは、ひざをついて安定した姿勢で。
- 追い口切りのチェーンソーの角度を調整するため、受け口に棒をはさみガイドにする。
- ツル（切り残す部分）がちょうつがいとなって伐倒方向を決める。ツルをきちんと残すことが重要である。
- 芯抜け防止のためには、芯を突っ込み切りして、ツルを左右に分けることも出来る。
- 伐倒してからも危険は沢山ある。力のかかっている枝の処理に神経を。
- 枝払い、玉切り等の作業は必ず斜面上部から。上下同時作業の禁止。

豊富な話題、明るく明瞭な語り口に、寒さも忘れてみな聞き入っていた。

チェーンソーの点検整備と目立て（11:00～11:30）

毎日の点検整備として、エアクリーナーの清掃、チェーンを外してバーの上下（表裏）反転（片減り防止）、チェーンオイル口の清掃などを行った。毎日行うべき基本的な作業であるが、「エアクリーナーの開け方がわからない」、「初めて掃除した」、「なるほど・・・」などの声が飛び交い、いかに普段無頓着に使っているのか思い知らされて、ある意味一番盛り上がった。



雨の中、完全装備で安全作業研修

目立てをきちんとすることは切れ味に影響し、ひいては安全確保の上で重要なことは頭では理解していても、なかなかマスターできない。今回は、目立て角度を一定に保つためのチェーンソーの置き方、体の位置とヤスリの持ち方など基本的なところから懇切丁寧な説明を受け、「なるほど納得」といった表情が多く見られた。目立て技術を自分のものにするには繰り返し実践することが必要だが、これを契機にしっかり身に付けなくては、両講師に申し訳ない。



エアクリーナーの位置は？



正しい目立てが安全の基本！

伐採研修 (11:30~13:15)

木村講師がまず、今回の研修で一番太い二股木をチルホールを使って重心方向とは反対側に伐採した。基本どおりで無駄のない動きは見えて心地よい。各工程はすばやく、特に追い口を切るのが早い。あっという間に伐倒されてしまい、シャッターチャンス逃してしまうほどである。

その後、各班ごとに協力して1本ずつ伐採した。状況によりチルホール利用、ロープ牽引、くさび打ち込みなどを使い分け、さらにかかり木の処理にフェリングレバー(木回し用具)なども実際に使用した。状況による手法や道具の使い分けの一端が実感でき、非常に有意義だった。

ただ、チェーンソーの操作に気を取られるあまり、指差し呼称、避難場所の確認など基本がおろそかな参加者が多く、完全に身に付くまでの道のりは長い。

なお、今回の伐採は巨木林エリアで、他の樹木と競合しており、密度管理、照度管理上伐採が必要と思われるコナラ及びカシを伐採した。いずれも樹齢50年程度で、胸高直径20~30センチ程度である。



ロープの内側は危険域！



模範演技は流石に完璧！



クサビの方向は正しく！



冷えた体をきのこ汁で温める

終わりに

今回の研修は多くの関係者の理解と協力があって、実現の運びとなった。里山センター及び林業サービスセンターの配慮には改めて感謝したい。また、鴨川里山を守る会との準備段階からの連携が実現に大きな力になった。最後に、雨の中、大鍋2つのキノコ汁を作り、参加者一同の体も心も温めてくれた、松本さん、新井さんへの感謝を記して研修のレポートとしたい。(伊藤記)

11/19 技術研修と今後の作業について

代表 坂本 彌

今回の研修は、天候に恵まれなかったのは残念でしたが、所期の目標はほぼ達成できたと思います。それには、当会関係者による適切な事前準備や入島誘導が大きく寄与したと思います。皆様のご尽力に感謝します。

この研修の大きな目標は、広葉樹の高木の安全な伐倒技術の習得だったと考えていますが、研修では、チェーンソーの手入れの基本、受け口・追い口など伐木作業の基本を学習し、その後、広葉樹高木の伐倒指導を受けました。伐倒指導では、事前に選木したもののうち径の大きいもの(上位3位を含む)を選び、チルホールやロープでの牽引を経験しました。ただ、研修時間が短く内容的にはかなり限られたものと思われます。とくにかかり木処理については、フェリングレバーで対応する一例しか経験できませんでした。受講者には提供された資料に十分目を通し、不足分を補って欲しいと思います。

今回の研修は有意義なものだったと思いますが、この種の技術(技能)も研修を受ければOKというものでなく、実作業の経験を積み重ねていくことが必要だと思います(因みに、私が2日間の特別教育を受けたときは、1本の木を倒しただけでした)。今後、当会では初心者も経験を積めるように考えていきたいと思っています。そして会としてのトータル能力を上げていきたいと思っています。具体的には、ベテランの管理下で安全な作業から順次経験を重ねることで可能だと考えます。

チェーンソー研修と今後の課題

安全委員長 長村雅文

私がチェーンソー及び伐採に関する研修に参加するのはこれで5回目となります。和気あいあいの楽しいものから怒号の飛び交う厳しいものまで様々でした。その度に痛感するのは自分の技術・経験の未熟さです。私は21日のチェーンソー研修にも参加してきましたが参考になること反省させられることが色々ありました。以下にその報告と当会としての今後の課題を述べます。21日富津の千葉林業サービスセンターを会場に里山センターのチェーンソー研修が行われた。参加者は里山センターの会員と緑のボランティアの合同で、平日にも関わらず約25名が参加した。講師は木村正敏氏。午前中は基礎知識の講義で、安全や危険予知の重要性、伐採作業における基本的な注意点を学ぶ。安全ビデオを視聴しながら昼食。「掛かり木処理」のビデオは非常に参考になった。午後はチェーンソーの整備と基本操作の実習を行う。倉庫で分解掃除と目立てをし、屋外に出て丸太を使って受け口・追い口の切り方を練習する。実際の作業と同じく指差し呼称も行い広い林内にこだまして気分爽快。最後にまとめの講評があり3時の予定時間を30分オーバーして終了した。伐採作業が行えなかったのは物足りないような気もするが、丸太相手に指差し呼称を何度も練習することも基本を身に着けるためには良かったと思う。講義と実技の内容もよくまとまっていて有意義な研修であった。

報告は以上です。19日と21日の研修を経て私が思うことは千年の森での伐採作業はかなり高度になってきているということです。例えば保護植物を避けながら伐倒する場面がしばしば見られますが、このような作業は林業や造園のプロでも困難な作業です。最も安全確実な方法はクレーンで吊るしながら伐採する方法ですが千年の森で行うわけにはいきません。そこでチルホールなど強力な牽引具を使って伐木や掛かり木処理を行うわけです。19日研修のメイン・テーマでもありますが、ここで強調したいのは安全の為に使用するチルホールでも、その操作を誤ればやはり危険が増大するということです。道具類も大切ですが作業の難易度を見極める目も必要になるでしょう。また高度な作業を支えるためにはその前段となっている様々な知識・技能の積み重ねが不可欠です。まずは今後も研修を実施して作業員全員が基礎的な知識・技能をきっちり身につける必要があるでしょう。

今後の課題を整理すると、まずは19日研修の反省を兼ねて実地に復習を行うことです。その上で今回の経験を素に伐採作業のマニュアルを改定する作業があります。ここで千年の森の実情に即した伐採方法やルールを明確にしたいと思います。これには今回研修に参加した会員はもとより全員の積極的な参加が不可欠です。安全・確実な森づくりのために皆様の理解と協力をよろしくお願いします。また天候不順の中このような研修が実施できたことは誇るべき当会の実績です。安全委員の一人として、ご協力いただいた会員及び関係各位に深く感謝いたします。

最後に研修を実施したことで安心しては何にもなりません。それが普段の活動で実践され森づくりに活かされることを願ってやみません。

研修参加者からのお便り

チェーンソー技術講習会に参加して

鴨川里山を守る会 井川健司氏

生憎の雨中の講習会でした。『足元も、手元も滑り易い』それから? 『(受講生の)人数が多すぎる』だから? 『大きな声で』『班と班の間隔を広くとる』そうですね。木村講師の質問に、みなさんの積極的な発言が続き、真剣さが窺えます。

講師の模範演技、も少し近くで見たかったですよ? ワイヤロープの中は、確かに危険区域だけど、鋸を入れてない模範木がすぐに倒れるわけではないから、この深さまでだったら大丈夫と(プロが)判断するまでは、チョット近くで、その技法を見たかったですね。

これまで得てきた経験や理論に裏付けされた技術は、兎に角、素晴らしい。あれを、手で挽いたら大変。しかし、文明は、事故の発生も早く、大きくした。人間はそこまで謙虚でいたのだろうか。講師の話や注意を、聞こえてはいるのですが、受け止めていない。周りも観ていない。平均年齢が高いので自我が確立されていてやむを得ないが、自己主張が強く柔軟性・協調性に欠けるのでは、の一面も見受けられます。安全に、が第一で、そのための講習会の筈。経験者も、というより、は特に謙虚に。

『もうこれだけで、来た甲斐があった』の声。何に対して?と謹聴すると、何と! エアーフィルターを初めて見た、とか、チェーンの着脱技法、外したカバーの中の木屑への驚き、目立ての要領などなどに、納得!?

何十年と生きてきた命を断つことに気持ちが複雑でもありました。雨の中での作業は、矢張り自然に、みなさんも緊張していましたね。手に受けとめた貴重な感覚の初体験もありました。吐く息が白くなり始めてからの遅い昼食に添えられた、自然の恵みの"キノコ汁"に全員感謝、の講習会でありました。ありがとうございました。

千年の森でのチェーンソー技術講習会に参加して

いちはら里山クラブ 三上みどりさん

一日中降りしきる雨の中チェーンソーの手入れ、木の伐採の仕方を学ぶ機会はそのようなにはない稀有な経験だったのではないのでしょうか。お心づくしのキノコ汁のまさに心の臓にしみこむ暖かいおいしさを参加者全員共有したと思います。ごちそうさまでした。小路の横にさりげなく鳶の子育ての巣も見られ、先ずゆらゆらめまいのするつり橋の先にある「秘密の花園」ならぬ「秘密の里山」めいて、美しい森の未来が楽しみです。戴いた通信にあります照度調査の記事もとても参考になります。私たちの里山もそんな視点で見つめなおして見ます。これからも色々教えてください。お世話になりました。

(豊英島ニュース)

この秋、シイタケやナメコなどの収量が極端に減っています。また11月9日の調査時2~30個あった2~3センチの小粒のシイタケが19日にはすっかり消失、残っているのは「ムカデ伏せ」ホダ木の見えない隙間のみ。誰かに食べられている疑いがあります。食べているのはサル?シカ?ウサギか?ヒト? (栽培きのこ班久我)

リース教室のお知らせ (伊藤)

12月3日(日)自然物だけを使ったネイチャーリースを作ります。用意するものは、リース本体用としてクズ、フジなどのあまり太くないツルを8メートル程度、飾るものは、木の実、花柄など自然のもので腐らないものならなんでも。サルトリイバラ(サンキライ)の赤、ツルウメモドキの黄色などが入ると映えます。松ボックリ、ドングリは伊藤が相当数用意します。また、ヒイラギ(葉)、モミ(葉)、ムラサキシキブ(実)は現地採取。道具として、剪定バサミ、マイナスドライバー、木工ボンド、爪楊枝(20~30本)なお、早く終了した方対象に、臼井さんがつる細工(かご)教室を開催する予定です。お問い合わせは伊藤(043-271-0282)まで。